

【事例2】中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（2年生徒）

集中して学習に取り組むことが難しく、集団での活動が苦手な生徒が、代替手段（自分に合った学習への取り組み方や集団への関わり方）を活用しながら、主体的に学習に取り組んだり、集団活動に適切に参加したりすることができるように、「人間関係の形成」「環境の把握」等の区分や項目の具体的な指導内容を設定するまでの事例です。

ア 実態把握

① 情報収集

「情報収集シート」を使用しました。継続的・系統的な指導ができるように、前年度からの引継ぎや、個別の教育支援計画及び個別の指導計画等を参考にし、本人の障害の状態、生活の状況や学習環境などの情報を記入しました（資料1）。強みを生かした指導ができるように、対象生徒の興味・関心やできていること、得意なことも記入しました。自立活動の区分に即した情報を収集する際は、「情報整理シート」の項目を参考にしました。

記入者： ○○ ○○		記入日： ○年○月○日	
ふりがな ○○ ○○	性別 ○	所属 ○○中	学校 ○○
氏名 ○○ ○○		2年○組	
家族構成 ○.○.本人.○	生年月日 ○年○月○日		
障害の種類・程度や状態等	・自閉スペクトラム症、注意欠如多動症（○年○月○日） ・居眠りが多く、授業や学校生活に支障が出ている		
諸検査の結果（心理検査・学力検査等）	・WISC-IV 全検査○○ 言語理解○○ 処理速度○○ ワーキングメモリー○○ 処理速度○○ （言語理解とワーキングメモリーの間に有意な差があり言語理解が高い）		
地域・関係機関	・○○病院に定期的に通院し、月1回心理面談を受けている ・○○を服薬している		
本人のねがい	・勉強で周りに追いつきたい ・パソコン操作が上手になりたい		
保護者のねがい	・楽しく学校に登校してほしい ・勉強に意欲的に取り組むことができるようになってほしい ・様々なことに前向きに取り組んでほしい		
興味・関心	・興味のあるジャンルの本を読むこと ・アニメを鑑賞すること ・パソコンで興味のあることを調べること ・アニメキャラクターなどの絵を描くこと ・機械部品を集めること		
学校生活での配慮事項 ・学習上 ・生活上 ・施設・設備や補助用具	・国語、数学、英語は特別支援学級で学習する ・交流学級で過ごすことが難しい時は別室で過ごすようにする ・本人や教科担当と相談し、課題量（特に書く量）を調節する ・見通しをもたせるために、事前に活動内容等について知らせる		
将来の姿 ・進路 ・卒業後	・本人、保護者共に高校への進学を希望している		
その他			
1 健康の保持	・興味のある活動に過度に集中してしまい、自分のことを顧みることが難しくなってしまうことがある ・生活のリズムが身に付いておらず遅刻が多い ・日中居眠りをすることがある ・整理・整頓の習慣が身に付いていない		
2 心理的な安定	・気分になることがあると、活動に集中できないことがある ・集団の中ではストレスを感じる事が多く、体調不良を訴えることがある ・次の活動や場面を切り替えることが難しい ・嫌なことがあっても、読書をするや落ち着くことができる		
3 人間関係の形成	・居眠りをしてしまい、集会等に参加できないことがある ・友人関係や学校行事などの集団行動が苦手であることを自覚している ・他者とのかかわり ・集団への参加		
4 環境の把握	・注意機能の特性により、安定して学習等に取り組むことが難しい ・状況を把握することが苦手であるため、その場に合った適切な行動を取ることが難しい		
5 身体の動き	・書くことが苦手で、周りと同じペースでの板書が難しかったり、課題に最後まで取り組みなかつたりすることがある ・運動が苦手である		
6 コミュニケーション	・友人の話を理解できないことがある ・コミュニケーションにすれ違いが生じることが多いことから、話す意欲が低下していることがある ・自分の意見を過度に通そうとすることがある ・思ったことをそのまま口にしてしまうことがある ・困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない ・言葉の意味を正しく理解していないことがある		

資料1 情報収集（「情報収集シート」より）



対象生徒は、高校進学について意識し、勉強を頑張りたいと思っているのですが、様々な障害の特性から学校生活の中で困難を抱え、思うように成果につながっていないところがあることが分かりました。教科担任や前学年の担任からも情報を収集するようにしました。

② 情報整理

①で収集した情報を「自立活動の区分に即して」「学習上又は生活上の困難の視点で」「将来の姿から」で整理することで、対象生徒の課題を焦点化していきました。

②-1 区分に即して整理

「情報整理シート」を使用して、生徒ができていない項目にチェック (☑) を付けました (資料2)。①で収集した情報と照らし合わせながらチェックを付けると、区分や項目でチェックの数に偏りがあることが分かりました。チェックの数が少ない区分や項目については、自立活動の指導の必要性が高いと考えました。

3 人間関係の形成		
(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 乳幼児期 (3歳頃まで) に身近な人と親密な関係を築いている <input type="checkbox"/> 他者とのかかわりに関心を持っている <input type="checkbox"/> 他者からの働き掛けを受け止めることができる <input type="checkbox"/> 他者からの働き掛けに応ずることができる	・重度 ・自閉症 ・視覚障害
(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> 言葉や表情、身振りなどを基にして、他者の意図や感情を理解することができる <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情に応じた適切な行動をとることができる	・自閉症 ・視覚障害 ・聴覚障害 ・自白症 ・知的障害
(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴等を理解している <input type="checkbox"/> 集団の中で自ら適切な行動を選択し調整する等して、状況に応じた行動ができる	・自閉症 ・聴覚障害 ・ADHD ・自閉症
(4) 集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順や決まりを理解している <input checked="" type="checkbox"/> 日常的によく使われる言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方等を理解している <input type="checkbox"/> 集団の雰囲気を理解して、遊びや活動等に参加することができる	・視覚障害 ・聴覚障害 ・LD ・ADHD
備考		
5 身体の動き		
(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持 (臥位、座位、立位等) ができる <input checked="" type="checkbox"/> 身体の部位を適切に動かしたり、指示を聞いて姿勢等を変えたりすることができる <input checked="" type="checkbox"/> 関節拘縮 (関節の可動域が制限され、屈曲・伸展が困難になる状態) や変形予防のための筋力維持・強化を図る適度な運動ができる	・身体不自由 ・筋ジストロフィー ・知的障害・視覚障害 ・ADHD
(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 基本動作の改善、取得のため補助的手段を活用することができる <input type="checkbox"/> 目的や用途に応じて適切な補助用具 (つえ、歩行器、車椅子等) を選び、活用することができる <input type="checkbox"/> 自分に合うように補助用具の使用の仕方を工夫し、調整することができる ※基本動作とは、姿勢保持と上肢・下肢の運動・動作を含めており、姿勢保持、姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動に分けることができる	・補助用具が必要 ・重度重複
(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 座位、立位を保持しながら、上肢を動かすことができる <input checked="" type="checkbox"/> 食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理ができる <input type="checkbox"/> 書字、描写等の学習のための基本動作ができる	・座位、立位 ・聴覚・動作・知的障害 ・知的障害・LD
(4) 身体の移動能力に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 自力での身体移動 (寝返りや腹這いなど) や歩行ができる <input checked="" type="checkbox"/> 歩行器を用いたり車いすを使用したりしながら、日常生活に必要な移動ができる <input checked="" type="checkbox"/> 交通機関の利用など、社会的な場面で目的地まで移動ができる	・視覚障害・知的障害 ・聴力が低く、歩行に必要な動作が難しい ・聴覚・動作・知的障害 ・身体不自由
(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作 (自分一人で、あるいは補助的手段を活用して座位保持ができ、机上で上肢を曲げたり伸ばしたり、ものを握ったり離したりする等) を行うことができる <input type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作の巧緻性や敏捷性を身に付けている <input type="checkbox"/> 作業の正確さと速さを維持し、持続して作業を行うことができる	・身体不自由 ・ADHD ・自閉症 ・知的障害
備考 5 (2) は生徒の実態とは関連が少ないと考え、斜線を入れました。		

「人間関係の形成」では、ほぼ全ての項目で課題があると考えました。

「身体の動き」の(3)から、書字に対する課題があると考えました。

資料2 情報整理 (「情報整理シート」より一部抜粋)



「3 人間関係の形成」は、チェックの数が少ないことから、全ての項目で課題があることが分かりました。「4 環境の把握」の(5)から、活動等の全体像を把握することに困難さがあることが分かりました。「5 身体の動き」の(3)では、書くことに苦手さがあり、周りの学習のペースについていくことが難しいことが分かりました。

## ②-2 学習上又は生活上の困難の視点で整理

「情報収集シート」の諸検査の結果や学校生活での配慮事項などの記述と、②-1 で明らかになった自立活動の指導の必要性が高い区分や項目を踏まえ、学習上又は生活上の困難の視点で整理しました。「～なため〇〇である」と整理することで、困難の背景や要因を明らかにすることができました。また、難しさだけではなく、既にできていることや支援があればできることなどについても整理しました。



対象生徒は、学習面では、書くことや集団の中で指示を聞き取ることに苦手さがあるため、授業に適切に参加したり、学習内容を理解したりすることが難しいと捉えました。また、生活面では、他者の言葉の意図や感情の把握が苦手なため、友人と適切に関わるできないことがあると捉えました。

## ②-3 将来の姿から整理

「情報収集シート」の本人や保護者の願いや将来の姿の記述を踏まえ、現在指導が必要と思われることを整理しました。卒業までにどのような力をどこまで育むとよいかを想定しながら整理しました。



対象生徒、保護者共に高校への進学を希望しています。そこで、進路を見据え、ICT機器等を活用した学習方法の習得や、教科や単元によっては少人数で行う学習形態の設定などが必要であると考えました。また、他者と良好な人間関係を構築できるようになるなどが必要であると考えました。

## イ 課題の整理

### ③ 実態把握からの課題抽出

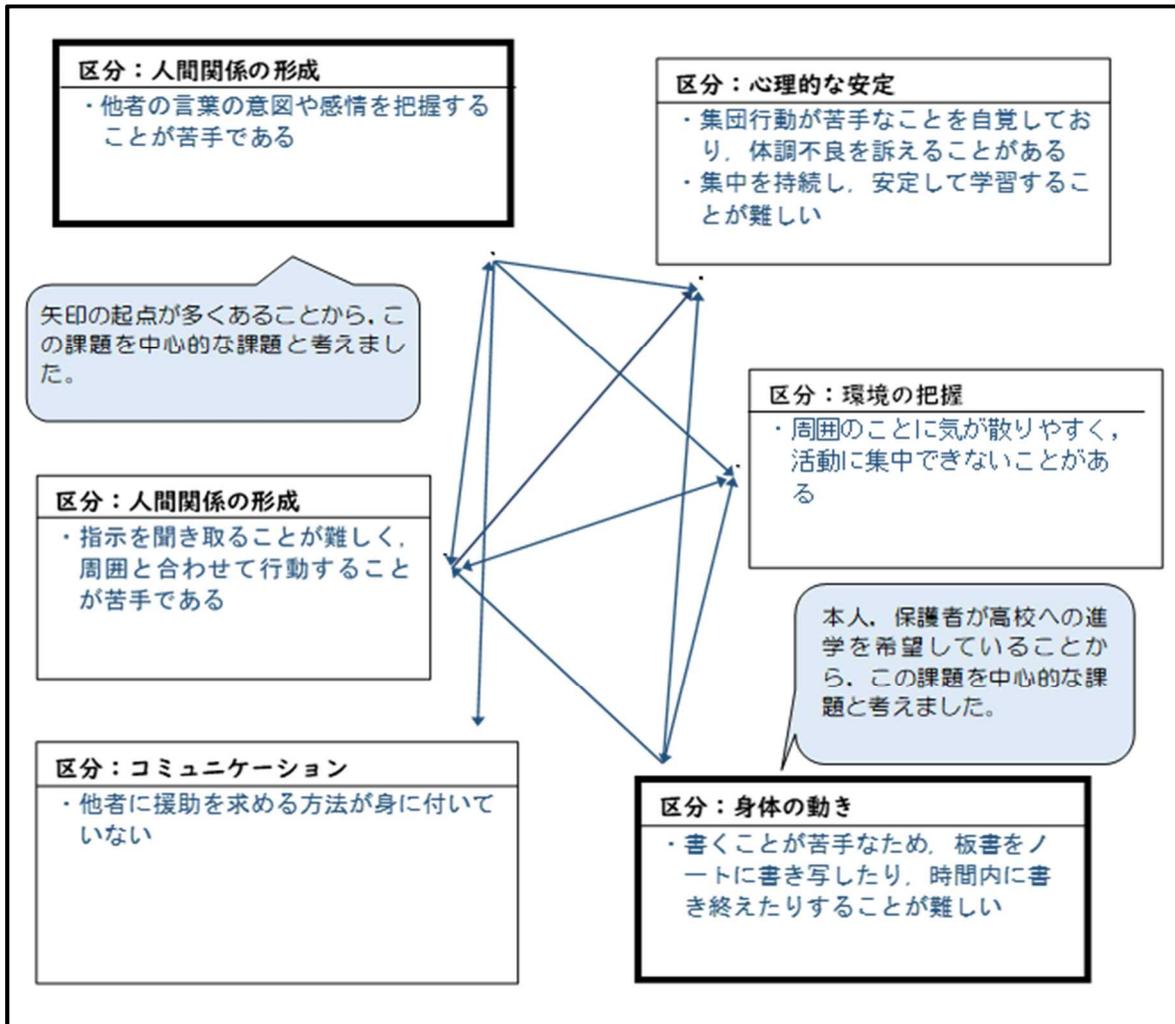
実態把握を通して、対象生徒の「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などが明らかになりました。その中から「課題抽出～指導目標シート」に現時点で課題となることを抽出しました(次頁資料3)。その際、生徒の現在の姿だけでなく、そこに至る背景や、中学校で指導可能な在学期間、高校進学後に必要とされると考える力との関係などを踏まえて抽出するようにしました。



「情報整理シート」で「I 健康の保持」の(1)も課題だと考えられました。しかし、前年度までの個別の指導計画等を見直すと、数年間目標として設定されていましたが、習得につながる明らかな変化が見られませんでした。そこで、他の課題を優先することにしました。

### ④ 中心的な課題の決定

「課題抽出～指導目標シート」を使用して、③の課題同士がどのように関連しているのかを、矢印で結んで整理し、中心的な課題を導き出しました(次頁資料3)。課題同士の関連については、「原因と結果」(→)や「相互に関係し合っている」(↔)などの観点、発達や指導の順序等を意識して矢印を結びました。そして、矢印の数や方向の様子を参考にして中心的な課題を導き出しました。



資料3 課題抽出（「課題抽出～指導目標シート」より一部抜粋）



矢印の数や方向の様子から、他者の言葉の意図や感情を把握することが難しいため、集団活動が苦手なことで体調不良を訴えたり、見通しをもって周囲と合わせて行動することができなかつたりすることが分かりました。そこで「他者の言葉の意図や感情を把握すること」を中心的な課題としました。また、本人、保護者とも、高校への進学を希望していますが、書くことが苦手なため、板書をノートに書き写したり、時間内に書き終えたりすることが難しいことが分かりました。そこで、「本人に適した学習方法を考えること」を中心的な課題としました。

ウ ⑤ 指導目標の設定

④で導き出した中心的な課題に基づき、長期の指導目標と短期の指導目標を設定しました（次頁資料4）。長期の指導目標は、進路達成に向け在学期間に達成可能であること、短期の指導目標は当面の短期的な観点に立ち、学期ごとに達成されることと捉えました。段階的に短期の指導目標が達成されることで、長期の指導目標の達成につながるよう意識して設定しました。

○長期の指導目標	<p>在学期間に（高校への進学に向け）達成可能であることを踏まえて設定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者からの働き掛けに対して、適切に応じることができる</li> <li>・集団活動に適切に参加することができる</li> <li>・代替手段を活用しながら主体的に学習に取り組むことができる</li> </ul>
○短期の指導目標	<p>当面の短期的な観点に立ち、これらの短期目標（学期ごと）が段階的に達成されそれが長期目標につながるという展望をもって設定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の気持ちや働き掛けなどについて理解する</li> <li>・授業や学校行事に見通しをもち、安心して活動に参加することができる</li> <li>・タブレットパソコンを使用し、自分に合った学習方法を身に付けることができる</li> </ul>

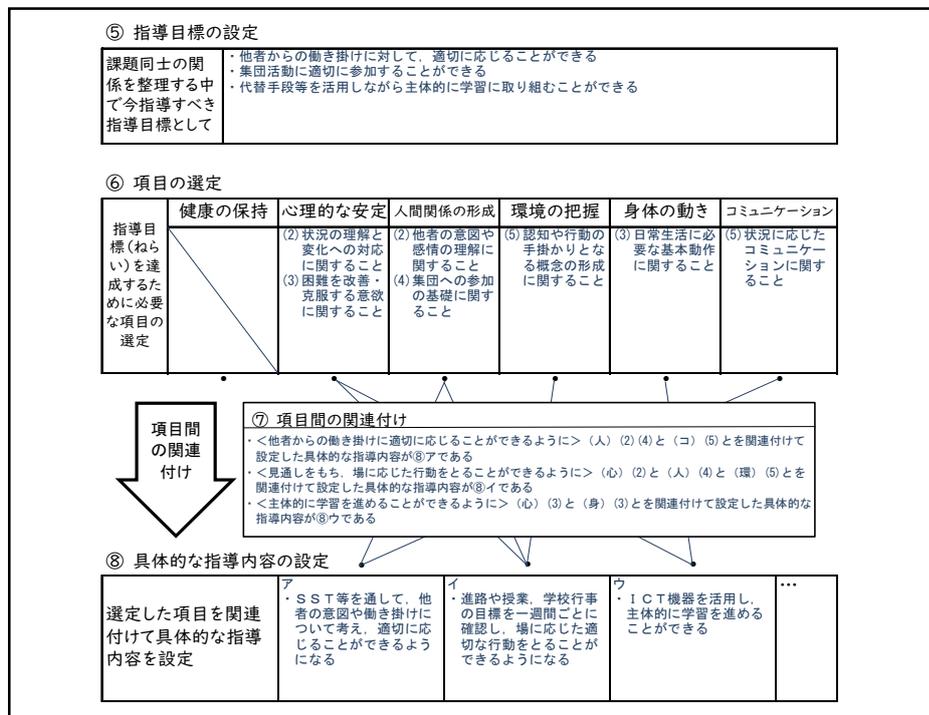
資料4 指導目標の設定（「課題抽出～指導目標シート」より一部抜粋）



長期の指導目標にある「他者からの働き掛けに対して、適切に応じることができる」を達成するために、短期の指導目標で、教師と一緒に友達の気持ちや働き掛けなどについて考える学習を設定しました。

## エ ⑥⑦ 項目の選定及び項目間の関連付け

⑤で示した指導目標を達成するために必要な項目を、「課題抽出～指導目標シート」で導き出した中心的な課題と関連している課題の項目を参考にし、自立活動の6区分 27項目の中から選定しました（資料5）。そして、選定した項目同士を「指導目標を達成するためには、このような力を育てる必要がある。したがって、区分○○○の項目○○と区分□□□の項目□□と関連付けて指導する」などと項目同士を関連付けました。



資料5 項目間の関連付け（「流れ図シート」より一部抜粋）



対象生徒の指導目標を達成するためには、他者からの言葉の意図や感情を把握したり、他者と適切に関わるコミュニケーション力を身に付けたりする必要があると捉え、自立活動の区分や項目間の関連付けを考えました。

オ ⑧ 具体的な指導内容の設定

⑥⑦を踏まえ、指導目標を達成するための具体的な指導内容を設定しました(前頁資料5)。その際、⑥で選定した項目と生徒の障害の状態と照らし合わせながら、「自立活動の具体的な指導内容例(障害種別)」にチェックを付けました(資料6)。そして、チェックを付けた具体的な指導内容例と留意点を参考にして現段階で必要な具体的な指導内容を設定しました(前頁資料5)。

自閉症・情緒障害		対象生徒の実態から、自閉症・情緒障害のシートを参考としました。		特別支援学校教育要領・学習指導要領解説より	
区分	項目	他の項目との関連例	児童生徒の障害の状態	具体的な指導内容例と留意点	チェック
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事		・他者とのかかわりをもととするが、その方法が十分に身に付いていない場合がある  ・嬉しい気持ちや悲しい気持ちを伝えにくい場合がある	・身近な教師とのかかわりから、少しずつ、教師との安定した関係を形成することが大切である  ・やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやりとりの方法が定着するようにし、相互にかかり合う素地を作ることが重要である  ・やりとりの方法を少しずつ増やしていくが、その際、言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報も用いて分かりやすくすることが大切である	
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事		・言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある ・言葉を字義通りに受け止めてしまう場合があるため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを関連づけることがある	・生活上の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手と考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることが大切である	✓
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事		・経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている場合がある  ・活動が消極的になったり、活動から逃避したりすることがある	・早期から成就感を味わうことができるような活動を設定するとともに、自己を肯定的に捉えられるように指導することが重要である	
		自己を理解し、状況に応じて行動できるようにするために、「3人間関係の形成(2)他者の意図や感情の理解に関する事」「4環境の把握」等	・自分の長所や短所に関心が向きにくいなど、自己の理解が困難な場合がある ・「他者が自分をどう見ているか」、「どうしてそのような見方をしているのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でないことから、友達や行動に対して適切に応じることができないことがある ・特定の光や音などにより混乱し、行動の調整が難しくなることがある	・体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、それへの対応方法を身に付けたりする指導を関連付けて行うことが必要である  ・光や音などの刺激の量を調整したり、避けたりするなど、感覚や認知の特性への対応に関する内容も関連付けて具体的な指導内容を設定することが求められる	
LD・ADHD		対象生徒の実態から、書くことに困難さがあるため、LD・ADHDのシートを参考としました。		特別支援学校教育要領・学習指導要領解説より	
5 身体動き	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	落ち着いて自信をもち書きや描画に取り組むためには、「2心理的な安定」「4環境の把握」	LDのある児童生徒の場合 ・鉛筆の握り方がさこちなく過度に力が入りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出てしまうこと等、手や指先を用いる細かい動きのコントロールが苦手なことがある  ・目と手、右手と左手等を協働させながら動かす運動が苦手なため、上手く取り組めないことにより焦りや不安が生じて、余計に書きが乱れてしまうことがある	・本人の使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付き定規等、本人の使いやすい用具を用いることにより、安心して取り組めるようにした上で指導することが大切である  ・自分の苦手な部分を申し出て、コンピュータによるキーボード入力等で記録することや黒板を写真に撮ること等、ICT機器を用いて書きの代替を行う事が大切である	✓
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事		ADHDのある児童生徒の場合 ・注意の持続の困難さに加えて、目と手の協働動作や指先の細かい動き、体を思った通りに動かすこと等が上手くいかないことから、身の回りの片付けや整理整頓等を最後まで遂行することが苦手なことがある  ADHDのある児童生徒の場合 ・手足を協調させて動かすことや微細な運動をすることに困難が見られることがある	・身体をリラックスさせる運動やボディイメージを育てる運動に取り組みながら、身の回りの生活動作に習熟することが大切である  ・目的に即して意図的に身体を動かすことを指導したり、手足の簡単な動きから始めて、段階的に高度な動きを指導したりすることなどが必要である  ・手指の巧緻性を高めるためには、児童生徒が興味や関心をもっていることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ねることが大切である  ・例えば、エプロンのひも結びについて、一つ一つの動作を身に付けることから始め、徐々に身に付けた一つ一つの動作をつなげ、連続して行えるようにすることが大切である  ・手本となる動作や児童生徒自身の動作を映像で確認するなど、自ら調整や改善を図っていくことができるよう工夫することが大切である  ・障害の状態によっては、身体動きの面で、関係する教科等の学習との関連を図り、作業に必要な基本動作の習得や巧緻性、敏捷性の向上を図るとともに、目と手の協働した動き、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整できるように指導することが大切である	

資料6 「自立活動の具体的な指導内容例(障害種別)」を基に作成



対象生徒の具体的な指導内容として3つ設定しました。⑧アについては、「3 人間関係の形成」の(2)(4)と「6 コミュニケーション」の(5)を参考にして、「SST等を通して、他者の意図や働き掛けについて考え、適切に応じることができるようになる」等の指導内容を設定しました。

## カ 事例を振り返って

これまでは、自立活動の指導で、どのようなことを指導すればよいのか悩んでいました。本研究で作成したシートを活用し、段階的に整理していくことで、対象生徒の実態に応じた指導内容を設定することができました。「情報整理シート」では、自立活動の6区分27項目の内容を理解することができ、対象生徒の全体像を捉えることができました。「課題抽出～指導目標シート」では、対象生徒の複数の課題の関連を視覚的に整理することができ、中心的な課題を導き出すことに大変役に立ちました。

使用したシート等を用いて、対象生徒の学習指導に関わる複数の教師と共通理解を図りながら、計画的、組織的に指導を進めていきたいと思えます。

次頁からは、本事例で実際に使用したシート等を掲載しています。

## 流れ図シート

### ① 情報収集

- ・本人は勉強で周りに追いつきたいと考えており、高校への進学を希望している
- ・保護者は、何事にも前向きに取り組み、高校に進学してほしいと思っている
- ・生活のリズムが整っておらず遅刻が多い
- ・周囲のことに気が散りやすく、活動に集中できないことがある
- ・嫌なことがあっても、読書をして落ち着くことができる
- ・集団での活動では、教師の指示や友達の話を聞き取れず、周囲と合わせて行動することが難しい
- ・集団での活動が苦手であることを自覚しており、無理に参加すると体調不良を訴えることがある
- ・自分の意見を過度に通そうとすることがある
- ・思ったことをそのまま口にしてしまうことがある
- ・他者の言葉の意図や感情の把握が苦手で、友人と適切に関わるできないことがある
- ・書くことが苦手で、周りと同じペースで板書を書き写すことが難しい
- ・困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない

### ②-1 情報整理(区分に即して整理)

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のリズムが整っておらず遅刻が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌なことがあっても、読書をして落ち着くことができる</li> <li>・集団での活動が苦手であることを自覚しており、無理に参加すると体調不良を訴えることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の言葉の意図や感情の把握が苦手で、友人と適切に関わるできないことがある</li> <li>・集団での活動では、教師の指示や友達の話を聞き取れず、周囲と合わせて行動することが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲のことに気が散りやすく、活動に集中できないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが苦手で、周りと同じペースで板書を書き写すことが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を過度に通そうとすることがある</li> <li>・思ったことをそのまま口にしてしまうことがある</li> <li>・困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない</li> </ul>

実態把握

### ②-2 情報整理(学習上又は生活上の困難の視点で整理)

- (学習面)
- ・書くことが苦手なため、板書をノートに書き写したり、時間内に書き終えることが難しい
  - ・集団での活動では、指示を聞き取ることが難しいため、周囲と合わせて行動することが苦手である
  - ・周囲のことに気が散りやすく、活動に集中できないため授業の内容に沿って学習することが難しい
- (生活面)
- ・他者の言葉の意図や感情の把握に苦手さがあるため、思ったことをそのまま口にしたり、自分の意見を過度に通そうとしたりして友人と適切に関わるできないことがある
  - ・他者に援助を求める方法が身に付いていないため、指示内容と違うことをすることがある
  - ・集団での活動が苦手であることを自覚しており、無理に参加すると体調不良を訴えることがある

### ②-3 情報整理(将来の姿から整理)

- (本人)
- ・集団生活が苦手であることを自覚している
  - ・高校への進学を望んでいる
  - ・教科や単位によっては、少人数で学習をするなど集中して学習に取り組めるようにする
  - ・自己理解を深めると共に、個や集団などの他との関わり方を学んでいく必要がある
  - ・ICT機器等を活用するなど自分の特性に合った学習方法を見い出す必要がある
- (保護者)
- ・楽しく学校に通い、様々なことに前向きに取り組み、高校に進学してほしいと望んでいる

[流れ図シート]

指導すべき課題の整理	<p>③ 実態把握からの課題抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団での活動が苦手なことを自覚している（心）</li> <li>・ 他者の言葉の意図や感情の把握が苦手である（人）</li> <li>・ 指示を聞き取ることが難しく、周囲と合わせて行動することが苦手である（人）</li> <li>・ 周囲のことに気が散りやすく、活動に集中できないことがある（環）</li> <li>・ 書くことが苦手なため、板書をノート等へ書き写したり、時間内に書き終えたりすることが難しい（身）</li> <li>・ 他者に援助を求める方法が身に付いていない（コ）</li> </ul>
	<p>④ 中心的な課題の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の言葉の意図や感情の把握が苦手なため、集団活動が苦手で体調不良を訴えたり、見通しをもって周囲と合わせて行動することができなかつたりする。そこで、他者や集団との適切な関わり方について学ぶ必要がある</li> <li>・ 学習に関しては書くことが苦手なため、時間内に板書が間に合わない。本人、保護者共に高校への進学を希望しており、自分に適した学習方法を考える必要がある</li> </ul>

⑤ 指導目標の設定

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者からの働き掛けに対して、適切に応じることができる</li> <li>・ 集団活動に適切に参加することができる</li> <li>・ 代替手段等を活用しながら主体的に学習に取り組むことができる</li> </ul>
-----------------------------	---

⑥ 項目の選定

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 困難を改善・克服する意欲に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

項目間の関連付け

⑦ 項目間の関連付け

- ・ <他者からの働き掛けに適切に応じることができるように> (人) (2) (4) と (コ) (5) とを関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧アである
- ・ <見通しをもち、場に応じた行動をとることができるように> (心) (2) と (人) (4) と (環) (5) とを関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧イである
- ・ <主体的に学習を進めることができるように> (心) (3) と (身) (3) とを関連付けて設定した具体的な指導内容が⑧ウである

⑧ 具体的な指導内容の設定

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SST等を通して、他者の意図や働き掛けについて考え、適切に応じることができるようになる</li> </ul>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路や授業、学校行事の目標を一週間ごとに確認し、場に応じた適切な行動をとることができるようになる</li> </ul>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器を活用し、主体的に学習を進めることができる</li> </ul>	...
-------------------------	--	---	---	-----

[情報収集シート]

記入者： ○○ ○○ 記入日： ○ 年 ○ 月 ○ 日

ふりがな	○○ ○○	性別	○○中	学校
氏名	○○ ○○	○	所属	2 年 ○ 組
家族構成	○, ○, 本人, ○		生年月日	○ 年 ○ 月 ○ 日
障害の種類・程度や状態等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉スペクトラム症, 注意欠如多動症 (○年○月○日)</li> <li>・居眠りが多く, 授業や学校生活に支障が出ている</li> </ul>			
諸検査の結果 (心理検査・学力検査等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WISC-IV 全検査○○</li> <li>・言語理解○○ 処理速度○○ ワーキングメモリー○○ 処理速度○○</li> <li>・(言語理解とワーキングメモリーの間に有意な差があり言語理解が高い)</li> </ul>			
地域・関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○病院に定期的に通院し, 月1回心理面談を受けている</li> <li>・○○を服薬している</li> </ul>			
本人のねがい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強で周りに追いつきたい</li> <li>・パソコン操作が上手になりたい</li> </ul>			
保護者のねがい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学校に登校してほしい</li> <li>・勉強に意欲的に取り組むことができるようになってほしい</li> <li>・様々なことに前向きに取り組んでほしい</li> </ul>			
興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあるジャンルの本を読むこと</li> <li>・アニメを鑑賞すること</li> <li>・パソコンで興味のあることを調べること</li> <li>・アニメキャラクターなどの絵を描くこと</li> <li>・機械部品を集めること</li> </ul>			
学校生活での配慮事項 ・学习上 ・生活上 ・施設・設備や補助用具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語, 数学, 英語は特別支援学級で学習する</li> <li>・交流学級で過ごすことが難しい時は別室で過ごすようにする</li> <li>・本人や教科担当と相談し, 課題量(特に書く量)を調節する</li> <li>・見通しをもたせるために, 事前に活動内容等について知らせる</li> </ul>			
将来の姿 ・進路 ・卒業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人, 保護者共に高校への進学を希望している</li> </ul>			
その他				

## [情報収集シート]

<p><b>1 健康の保持</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣</li> <li>・ 病気や体調の状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味のある活動に過度に集中してしまい、自分のことを顧みることが難しくなってしまうことがある</li> <li>・ 生活のリズムが身に付いておらず遅刻が多い</li> <li>・ 日中居眠りをすることがある</li> <li>・ 整理・整頓の習慣が身に付いていない</li> </ul>
<p><b>2 心理的な安定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情緒の安定</li> <li>・ 環境や周囲のものに対するかかわり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気になることがあると、活動に集中できないことがある</li> <li>・ 集団の中ではストレスを感じる事が多く、体調不良を訴えることがある</li> <li>・ 次の活動や場面を切り替えることが難しい</li> <li>・ 嫌なことがあっても、読書をするとうち着くことができる</li> </ul>
<p><b>3 人間関係の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者とのかかわり</li> <li>・ 集団への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居眠りをしてしまい、集会等に参加できないことがある</li> <li>・ 友人関係や学校行事などの集団行動が苦手であることを自覚している</li> <li>・ 他者の言葉の意図や感情の把握が苦手で、友人と適切に関わることができないことがある</li> <li>・ 指示内容と違うことをすることがある</li> </ul>
<p><b>4 環境の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感覚や認知の特性</li> <li>・ 感覚の補助及び代行手段</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注意機能の特性により、安定して学習等に取り組むことが難しい状況を把握することが苦手であるため、その場に合った適切な行動を取ることが難しい</li> </ul>
<p><b>5 身体の動き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活に必要な動作の様子</li> <li>・ 姿勢や運動・動作の様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書くことが苦手で、周りと同じペースでの板書が難しかったり、課題に最後まで取り組めなかったりすることがある</li> <li>・ 運動が苦手である</li> </ul>
<p><b>6 コミュニケーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語等でのやりとり</li> <li>・ 言語の表出や理解</li> <li>・ 状況に応じたコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友人の話を理解できないことがある</li> <li>・ コミュニケーションにすれ違いが生じることが多いことから、話す意欲が低下していることがある</li> <li>・ 自分の意見を過度に通そうとすることがある</li> <li>・ 思ったことをそのまま口にしてしまうことがある</li> <li>・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない</li> <li>・ 言葉の意味を正しく理解していないことがある</li> </ul>

[情報整理シート]

学習指導要領の具体的な  
指導内容例に示された障害種

1 健康の保持

<p>(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事</p>	<p>【生活のリズム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 朝、決まった時間に起きることができる</li> <li><input type="checkbox"/> 日中、目覚めた状態を維持することができる</li> <li><input type="checkbox"/> 就寝時間を守ることができる</li> <li><input type="checkbox"/> 規則正しく、食事をとることができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 排泄等の規則正しい生活のリズムが身に付いている</li> </ul>	<p>【生活習慣の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 体温の調節ができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 体調の変化に気付くことができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 温度に適した衣服の調節ができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 適切な室温の調節や換気ができる</li> <li><input type="checkbox"/> 髪や身体、服装などを清潔に保つことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複</li> <li>・視覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・ADHD</li> </ul>
<p>(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自分の病気を理解し、病状に応じた対応をすることができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 体調の変化に気付いたり、病気の予防等を心掛けたりすることができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 服薬等の必要性について理解し、自己管理をすることができる</li> <li><input type="checkbox"/> 病状を維持・改善するため、自分の生活を管理することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病</li> <li>・二分脊椎</li> <li>・進行性疾患</li> <li>・うつ病・口蓋裂</li> <li>・てんかん</li> <li>・小児がん</li> </ul>	
<p>(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態や、眼、耳等の構造を理解している</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 病気や事故等による身体各部を適切に保護することができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 病気や事故等による身体各部の症状の進行を防止することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・下肢切断による義肢装着</li> <li>・床ずれ</li> <li>・筋ジストロフィー</li> </ul>	
<p>(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 自分の障害の特性について理解している</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 障害によって生じる学習上又は生活上の困難について理解している</li> <li><input type="checkbox"/> 困難な状況に対して、自己の行動や感情を調整することができる</li> <li><input type="checkbox"/> 生活する上で必要な支援を、主体的に他者に求めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吃音</li> <li>・自閉症</li> <li>・LD・ADHD</li> <li>・視野の障害</li> <li>・聴覚障害</li> </ul>	
<p>(5)健康状態の維持・改善に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 肥満や体力低下を防ぐため、適度な運動を行うことができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 肥満や体力低下を防ぐため、食生活を自己管理することができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 健康状態が分かり、その状態に応じた適切な健康管理ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複</li> <li>・たんの吸入等医療的ケア</li> <li>・知的障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・心臓疾患</li> </ul>	
<p>備考</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「健康の保持」では、(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事に課題があると考えました。</p> </div>			

2 心理的な安定

<p>(1)情緒の安定に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 悩みを打ち明ける等、自分の不安な気持ちを表現することができる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 興奮を静めたり不安を和らげたりする等、情緒を安定させる方法を理解している</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 情緒を安定させる方法を、実際に行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白痴病・自閉症</li> <li>・ADHD・LD</li> <li>・チック・重度重複</li> <li>・心身症</li> </ul>	
<p>(2)状況の理解と変化への対応に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 環境や周囲の状況を理解することができる</li> <li><input type="checkbox"/> 環境や周囲の状況の変化に対し、適切に対応することができる</li> <li><input type="checkbox"/> 見通しをもち、その場に応じた行動の仕方を身に付けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・選択性かん黙</li> <li>・自閉症</li> </ul>	
<p>(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 自分の障害の状態を理解したり、受容したりしている</li> <li><input type="checkbox"/> 障害に伴う学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲をもっている</li> <li><input type="checkbox"/> 自己を肯定的に捉え、積極的に活動に取り組もうとしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋ジストロフィー</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・LD</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・吃音</li> <li>・知的障害</li> </ul>	
<p>備考</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「心理的な安定」では、情緒の安定はしているが、(2)(3)では、環境や周囲の状況を理解し、適切に対応することに課題があると考えました。また、障害に伴う学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲に乏しいところがあり、活発に取り組む姿勢が消極的になっているところが課題であると考えました。</p> </div>			

[情報整理シート]

### 3 人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 乳幼児期（3歳頃まで）に身近な人と親密な関係を築いている <input type="checkbox"/> 他者とのかかわりに関心を持っている <input type="checkbox"/> 他者からの働き掛けを受け止めることができる <input type="checkbox"/> 他者からの働き掛けに応ずることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度</li> <li>・自閉症</li> <li>・視覚障害</li> </ul>
(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> 言葉や表情、身振りなどを基にして、他者の意図や感情を理解することができる <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情に応じた適切な行動をとることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症</li> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・白血病</li> </ul>
(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴等を理解している <input type="checkbox"/> 集団の中で自ら適切な行動を選択し調整する等して、状況に応じた行動ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・ADHD</li> <li>・自閉症</li> </ul>
(4) 集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 集団に参加するための手順や決まりを理解している <input checked="" type="checkbox"/> 日常的によく使われる言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方等を理解している <input type="checkbox"/> 集団の雰囲気を理解して、遊びや活動等に参加することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・LD</li> <li>・ADHD</li> </ul>
備考	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             「人間関係の形成」では、ほぼ全ての項目で課題があると考えました。           </div>	

### 4 環境の把握

(1) 保有する感覚の活用に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 学習や生活の場面で、保有する感覚を活用している ※保有する感覚とは、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等 ※固有覚とは、筋肉や関節の動きなどによって生じる自分自身の身体の情報を受け取る感覚。主に力の加減や動作等に関係している ※前庭覚とは、重力や動きの加速度を感知する感覚。主に姿勢のコントロール等に関係している 【例】視覚障害の児童生徒が聴覚や触覚、嗅覚を手掛かりに活動したり、弱視であれば保有する視覚を最大限に活用したりすること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・重度重複</li> </ul>
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の感覚の過敏さや認知の偏り等の特性について理解している <input type="checkbox"/> 自分の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理することができる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の感覚や認知の特性に応じた対処の方法を積極的に活用し、不得意なことを改善しようとしている ※認知とは、感覚を通して得られる情報を基に行われる情報処理の過程であり、記憶する、思考する、決定する、推理する、イメージを形成するなどの心理的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・ADHD</li> <li>・LD</li> <li>・脳性疾患</li> <li>・脳性まひ</li> <li>・体の動かし方にぎこちなさがある</li> </ul>
(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 状況を把握しやすくするために、各種の補助機器（弱視レンズや感光器等）を活用している <input checked="" type="checkbox"/> 状況を把握しやすくするために、他の感覚を適切に活用することができる（聴覚障害者の手話の使用等） <input type="checkbox"/> 状況を把握しやすくするために、機器での代行が的確にできる（学習障害のある者のICTの使用等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・弱視</li> </ul>
(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> 保有するいろいろな感覚やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集することができる <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用し、周囲の状況を的確に把握することができる <input type="checkbox"/> 情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動をすることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・知的障害</li> <li>・LD</li> <li>・肢体不自由</li> </ul>
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 保有する感覚などを用い、ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念を形成することができる <input type="checkbox"/> 自分の経験によって作り上げてきた概念を、日常の学習や生活における認知や行動を進めていくために活用することができる ※概念とは、個々の事物・事象に共通する性質を抽象し、まとめ上げることによって作られるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・知的障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・ADHD</li> <li>・LD・弱視</li> <li>・聴覚障害</li> </ul>
備考	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             「環境の把握」では、(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事に課題があると考えました。           </div>	

[情報整理シート]

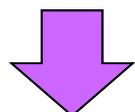
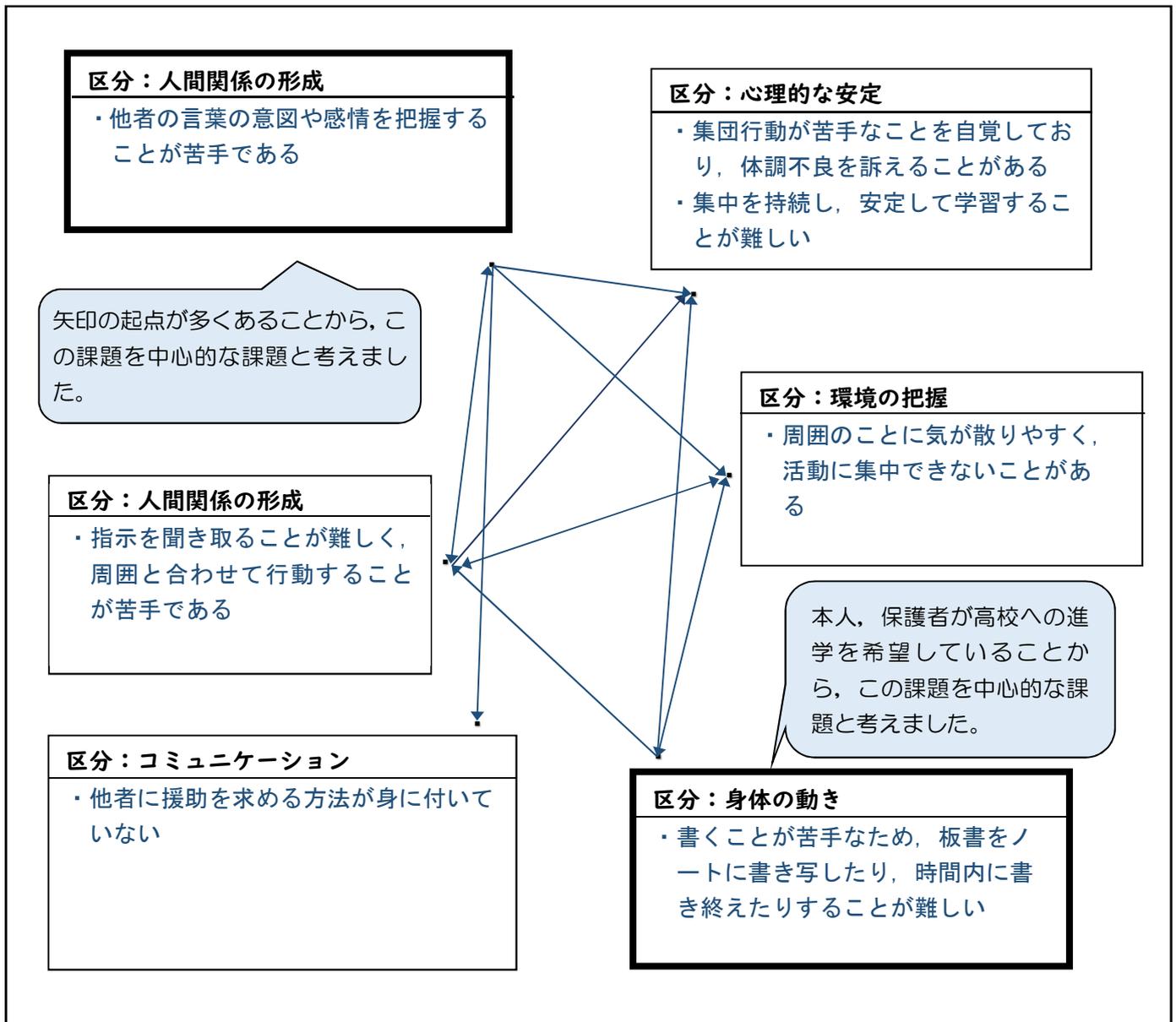
## 5 身体の動き

(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持(臥位, 座位, 立位等)ができる <input checked="" type="checkbox"/> 身体の部位を適切に動かしたり, 指示を聞いて姿勢等を変えたりすることができる <input checked="" type="checkbox"/> 関節拘縮(関節の可動域が制限され, 屈曲・伸展が困難になる状態)や変形予防のための筋力維持・強化を図る適度な運動ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由</li> <li>・筋ジストロフィー</li> <li>・知的障害・視覚障害</li> <li>・ADHD</li> </ul>
(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	<input type="checkbox"/> 基本動作の改善, 取得のため補助的手段を活用することができる <input type="checkbox"/> 目的や用途に応じて適切な補助用具(つえ, 歩行器, 車椅子等)を選び, 活用することができる <input type="checkbox"/> 自分に合うように補助用具の使用の仕方を工夫し, 調整することができる ※基本動作とは, 姿勢保持と上肢・下肢の運動・動作を含めており, 姿勢保持, 姿勢変換, 移動, 四肢の粗大運動と微細運動に分けることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助用具が必要</li> <li>・重度重複</li> </ul>
(3)日常生活に必要な基本動作に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> 座位, 立位を保持しながら, 上肢を動かすことができる <input checked="" type="checkbox"/> 食事, 排泄, 衣服の着脱, 洗面, 入浴などの身辺処理ができる <input type="checkbox"/> 書字, 描写等の学習のための基本動作ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座位, 立位を保持しながら上肢を動かす</li> <li>・運動・動作が極めて困難</li> <li>・知的障害</li> <li>・LD</li> </ul>
(4)身体の移動能力に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> 自力での身体移動(寝返りや腹這いなど)や歩行ができる <input checked="" type="checkbox"/> 歩行器を用いたり車いすを使用したりしながら, 日常生活に必要な移動ができる <input checked="" type="checkbox"/> 交通機関の利用など, 社会的な場面で目的地まで移動ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害・心臓疾患</li> <li>・筋力が弱く, 歩行に必要な緊張を得られない</li> <li>・運動・動作が極めて困難</li> <li>・肢体不自由</li> </ul>
(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作(自分一人で, あるいは補助的手段を活用して座位保持ができ, 机上で上肢を曲げたり伸ばしたり, ものを握ったり離したりする等)を行うことができる <input type="checkbox"/> 作業に必要な基本動作の巧緻性や敏捷性を身に付けている <input type="checkbox"/> 作業の正確さと速さを維持し, 持続して作業を行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由</li> <li>・ADHD</li> <li>・自閉症</li> <li>・知的障害</li> </ul>
備考 5(2)は生徒の実態とは関連が少ないと考え, 斜線を入れました。		「身体の動き」の(3)から, 書字に対する課題があると考えました。

## 6 コミュニケーション

(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること	<input type="checkbox"/> 表情や身振り, 各種機器などを用いて意思や要求を相手に伝えようとするすることができる <input type="checkbox"/> 障害の種類や程度, 興味・関心等に応じて, 伝えるための手段を広げている <input type="checkbox"/> 他の人からの働き掛けを受け入れることができる <input type="checkbox"/> 言葉や気持ちのやりとりを楽しむことができる ※コミュニケーションとは, 人間が意思や感情などを相互に伝え合うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・自閉症</li> <li>・言語発達の遅れ</li> <li>・知的障害</li> </ul>
(2)言語の受容と表出に関すること	<input type="checkbox"/> 音声や文字, 身振りや表情等から, 相手の意図を理解することができる <input checked="" type="checkbox"/> 発声・発語器官(口腔器官)を適切に働かせ, 正しい発音を出すことができる <input checked="" type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号, 補助的手段を活用して, 自分の考えを表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性まひ・聴覚障害</li> <li>・構音障害・自閉症</li> <li>・ADHD</li> </ul>
(3)言語の形成と活用に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> 体験したことと言語を結び付けることができる <input type="checkbox"/> 適切な語彙があり, 言葉の意味を正しく理解している <input checked="" type="checkbox"/> 獲得した言葉を生活の中で生かそうとしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・言語発達の遅れ</li> <li>・視覚障害</li> <li>・LD</li> </ul>
(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること	<input checked="" type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号, 機器等のコミュニケーションの手段を身に付けている <input type="checkbox"/> 必要に応じて, コミュニケーションの手段を選択できる <input type="checkbox"/> 選んだ手段を活用し, コミュニケーションをとることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声言語の表出は困難だが, 文字言語の理解ができる</li> <li>・視覚障害</li> <li>・弱視</li> <li>・聴覚障害・知的障害</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・進行性の病気</li> <li>・自閉症</li> <li>・LD</li> </ul>
(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	<input type="checkbox"/> 相手の立場や状況に応じて, 声の大きさの調整や適切な言葉の使い方などができる <input type="checkbox"/> 相手の立場や状況に応じて, 電話やコンピューター等コミュニケーションの手段を選択することができる <input type="checkbox"/> 場や相手の状況に応じて, 主体的なコミュニケーションを展開できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・LD</li> <li>・自閉症</li> <li>・選択性かん黙</li> <li>・入院中</li> </ul>
備考 6(1)(5)にチェックが付いていないことから, 自立活動の指導の必要性が高い項目だと考えました。		

[課題抽出～指導目標シート]



<p>○長期の指導目標</p>	<p>在学期間に（高校への進学に向け）達成可能であることを踏まえて設定しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者からの働き掛けに対して、適切に応じることができる</li> <li>・集団活動に適切に参加することができる</li> <li>・代替手段を活用しながら主体的に学習に取り組むことができる</li> </ul>	
<p>○短期の指導目標</p>	<p>当面の短期的な観点に立ち、これらの短期目標（学期ごと）が段階的に達成されそれが長期目標につながるという展望をもって設定しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の気持ちや働き掛けなどについて理解する</li> <li>・授業や学校行事に見通しをもち、安心して活動に参加することができる</li> <li>・タブレットパソコンを使用し、自分に合った学習方法を身に付けることができる</li> </ul>	

# 自閉症・情緒障害

対象生徒の実態から、自閉症・情緒障害のシートを参考としました。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説より

区分	項目	他の項目との関連例	児童生徒の障害の状態	具体的な指導内容例と留意点	チェック
I 健康 の 保 持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事		<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の食物や衣服に強いこだわりを示す場合があり、極端な偏食になったり、季節の変化にかかわらず同じ衣服を着続けたりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組むことが大切である</li> <li>生活のリズムや生活習慣の形成は、日課に即した日常生活の中で指導をすることによって養うことができる場合が多い</li> <li>生活のリズムや生活習慣の形成に関する指導を行う際には、対象の児童生徒の1日の生活状況を把握する必要がある</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>相手からどのように見られているのかを推測することが苦手な場合がある</li> <li>整髪や着衣の乱れなど身だしなみを整えることに関心が向かないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清潔や衛生を保つことの必要性を理解できるようにし、家庭等との密接な連携の下に不衛生にならないように日常的に心がけられるようにすることが大切である</li> </ul>	
			<p>体調の管理に関する指導については、 「3人間関係の形成」 「4環境の把握」 「6コミュニケーション」等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体調がよくない、悪くなりつつある、疲れているなどの変調がわからずに、無理をしてしまうことがあり、体調を崩したり、回復に非常に時間がかかったりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を維持するために、気になることがあっても就寝時刻を守るなど、規則正しい生活をするための大切さについて理解したり、必要に応じて衣服を重ねるなどして温度に適した衣服の調節をすることを身に付けたりすることが必要である</li> <li>体調を自己管理するために、客観的な指標となる体温を測ることを習慣化し、体調がよくないと判断したら、その後の対応を保護者や教師と相談することを学ぶなどの指導が大切である</li> </ul>
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のある活動に過度に集中してしまい、自分のことを顧みることが難しくなってしまうことがある</li> <li>自己を客観的に把握することや体内の感覚を自覚することなどが苦手だということがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する習慣について指導する場合には、自己を客観視するため、例えば、毎朝その日の体調を記述したり、起床・就寝時刻などを記録したりして、スケジュール管理をすること、自らの体内の感覚に注目することなどの指導をすることが大切である</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚の過敏さやこだわりがある場合、大きな音がしたり、予定通りに物事が進まなかったりすると、情緒が不安定になることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から別の場所に移動したり、音量の調整や予定を説明してもらうことを他者に依頼したりするなど、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにすることが大切である</li> </ul>	
(5) 健康状態の維持・改善に関する事		<ul style="list-style-type: none"> <li>運動量が少なく、結果として肥満になったり、体力低下を招いたりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力低下を防ぐためには、運動することへの意欲を高めながら適度な運動を取り入れたり、食生活と健康について実際の生活に即して学習したりするなど、日常生活において自己の健康管理ができるようにするための指導が必要である</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>心理的な要因により不登校の状態が続く、運動量が極端に少なかったり、食欲不振の状態になったりする場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の維持・改善を図る指導を進めるに当たっては、主治医等から個々の児童生徒の健康状態に関する情報を得るとともに、日ごろの体調を十分に把握する必要があることから、医療機関や家庭と密接な連携を図ることが大切である</li> </ul>		

マーカーで引いた箇所は、チェックする根拠となった記述や指導内容を検討する際に参考にした記述です。

2 心理的 な 安定	(1) 情緒の安定に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい場合、自ら自分をたたいてしまうことや、他者に対して不適切な関わり方をしてしまうことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を落ち着かせることができる場所に移動して、慣れた別の活動に取り組むなどの経験を積み重ねていながら、その興奮を静める方法を知ることや、様々な感情を表した絵カードやメモなどを用いて自分の気持ちを伝えるなどの手段を身に付けられるように指導することが大切である</li> </ul>	✔
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活環境などの様々な要因から、心理的に緊張したり不安になったりする状態が継続し、集団に参加することが難しくなることがある</li> <li>・ 環境的な要因が心理的面に大きく関与していることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠、生活のリズム、体調、天気、家庭生活、人間関係など、その要因を明らかにし、情緒の安定を図る指導をするとともに、必要に応じて環境の改善を図ることが大切である</li> </ul>	
		<p>チックの症状のある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不安や緊張が高まった状態になると、身体が動いてしまったり、言葉を発してしまったりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不安や緊張が高まる原因を知り、自ら不安や緊張を和らげるようにするなどの指導をすることが大切である</li> </ul>	
	(2) 状況の理解と変化への 対応に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の日課と異なる学校行事や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定されているスケジュールや予想される事態や状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりするなど、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりするための指導をすることが大切である</li> </ul>	✔
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周囲の状況に意識を向けることや経験したことを他の場面にも結び付けて対応することが苦手なため、人前で年齢相応に行動する力が育ちにくいことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動の仕方を短い文章にして読むようにしたり、適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けさせていくことが大切である</li> </ul>	
		<p>選択性かん黙の児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家庭などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒の安定を図りながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である</li> </ul>	
		<p>本人が納得して次の活動に移ることができるような指導については、 「3人間関係の形成」 「4環境の把握」等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面を切り換えることが難しいことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の活動に移ることができるように段階的に指導することが大切である</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こだわりの要因としては、自分にとって快適な刺激を得ていたり、不安な気持ちを和らげるために自分を落ち着かせようと行動していたりしていることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の動作や行動を行ってもよい時間帯や回数をあらかじめ決めたり、自分で予定表を書いて確かめたりして、見通しをもって落ち着いて取り組めるように指導することが有効である</li> </ul>	
	(3) 障害による学習上又は 生活上の困難を改善・ 克服する意欲に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害に起因して心理的な安定を図ることが困難な状態にある場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ障害のある者同士の自然なかかわりを大切にしたり、社会で活躍している先輩の生き方や考え方を参考にできるようにしたりして、心理的な安定を図り、障害による困難な状態を改善・克服して積極的に行動しようとする態度を育てることが大切である</li> </ul>	✔

3 人 間 関 係 の 形 成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者とのかかわりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な教師とのかかわりから、少しずつ、教師との安定した関係を形成することが大切である</li> <li>やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやりとりの方法が定着するようにし、相互にかかわり合う素地を作ることが重要である</li> <li>やりとりの方法を少しずつ増やしていくが、その際、言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報も用いて分かりやすくすることが大切である</li> </ul>	
	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある</li> <li>言葉を字義通りに受け止めてしまう場合があるため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることが大切である</li> </ul>	✓
	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている場合がある</li> <li>活動が消極的になったり、活動から逃避したりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期から成就感を味わうことができるような活動を設定するとともに、自己を肯定的に捉えられるように指導することが重要である</li> </ul>	
	<p>自己を理解し、状況に応じて行動できるようになるためには、</p> <p>「3人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること」 「4環境の把握」等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の長所や短所に関心が向きにくいなど、自己の理解が困難な場合がある</li> <li>「他者が自分をどう見ているか」、「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でないことから、友達の行動に対して適切に応じることができないことがある</li> <li>特定の光や音などにより混乱し、行動の調整が難しくなることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、それへの対応方法を身に付けたりする指導を関連付けて行うことが必要である</li> <li>光や音などの刺激の量を調整したり、避けたりするなど、感覚や認知の特性への対応に関する内容も関連付けて具体的な指導内容を設定することが求められる</li> </ul>	
4 環 境 の 把 握	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚の過敏さのため特定の音に、また、触覚の過敏さのため身体接触や衣服の材質に強く不快感を抱くことがある</li> <li>刺激が強すぎたり、突然であったりすると、感情が急激に変化したり、思考が混乱したりすることがある</li> <li>ある児童生徒にとって不快な刺激も、別の児童生徒にとっては快い刺激である場合がある</li> <li>不足する感覚を補うため、身体を前後に動かしたり、身体の一部をたたき続けたりして、自己刺激を過剰に得ようとすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不快である音や感触などを自ら避けたり、児童生徒の状態に応じて、音が発生する理由や身体接触の意図を知らせるなどして、それらに少しずつ慣れていったりするように指導することが大切である</li> <li>個々の児童生徒にとって、快い刺激は何か、不快な刺激は何かをきめ細かく観察して把握しておく必要がある</li> <li>例えば、身体を前後に動かしている場合には、ブランコ遊びを用意するなど、自己刺激のための活動と同じような感覚が得られる他の適切な活動に置き換えるなどして、児童生徒の興味がより外に向かい、広がるような指導をすることが大切である</li> </ul>	

4 環境の把握	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること		<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚に過敏さが見られ、特定の音を嫌がることもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で苦手な音などを知り、音源を遠ざけたり、イヤーマフやノイズキャンセルヘッドホン等の音量を調節する器具を利用したりするなどして、自分で対処できる方法を身に付けるように指導することが必要である</li> <li>・特定の音が発生する理由や仕組みなどを理解し、徐々に受け入れられるように指導していくことが大切である</li> </ul>	
	(5) 認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関すること		<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚過敏のため、必要な音を聞き分けようとしても、周囲の音が重なり聞き分けづらい場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音量を調節する器具の利用等により、聞き取りやすさが向上し、物事に集中しやすくなることを学べるようにし、必要に応じて使い分けられるようにすることが大切である</li> <li>・状況に応じてこれらの器具を使用することを周囲に伝えることができるように指導することが大切である</li> <li>・個々の児童生徒の障害の状態や発達の段階、興味・関心等に応じて、将来の社会生活等に結び付くように補助及び代行手段の適切な活用に努めることが大切である</li> </ul>	
5 身体の動き	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	「2心理的な安定」 「3人間関係の形成」等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もう少し」、「そのくらい」、「大丈夫」など、意味内容に幅のある抽象的な表現を理解することが困難な場合があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しいことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うとともに、手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を形成できるようにすることが大切である</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある事柄に注意が集中する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部分だけでなく、全体を把握することが可能となるように、順序に従って全体を把握する方法を練習することが大切である</li> </ul>	✓
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやり方にこだわりがあったり、手足を協調させてスムーズに動かしたりすることが難しい場合がある</li> <li>・他者の意図を適切に理解することが困難であったり、興味のある一つの情報のみに注意が集中してしまったりすることから、教師が示す手本を自ら模倣しようとする意識がもてないため、作業に必要な巧緻性などが十分育っていないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの作業についていろいろな方法を経験させるなどして、作業のやり方へのこだわりを和らげたり、児童生徒と教師との良好な人間関係を形成し、児童生徒が主体的に指導者の示す手本を模倣しようとする気持ちを育てたりすることが大切である</li> </ul>	
		コミュニケーションの基礎的能力に関する指導においては、 「3人間関係の形成」 「5身体の動き」等	<p>知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人への関心が乏しく結果として他の人からの働きかけを受け入れることが難しい場合がある</li> <li>・興味や関心をもっている事柄に極端に注意が集中していたり、相手の意図や感情をとらえることが難しかったりする場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の者はそれらの行動が意思の表出や要求を伝達しようとした行為であることを理解するとともに、児童生徒がより望ましい方法で意思や要求を伝えることができるよう指導することが大切である</li> </ul>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童生徒の興味や関心のある活動の中で、教師の言葉掛けに対して視線を合わせたり、児童生徒が楽しんでいる場面に教師が「楽しいね」、「うれしいね」などの言葉をかけたりするなどして、人とやりとりをすることや通じ合う楽しさを感じさせながら、他者との相互的なやりとりの基礎的能力を高める指導をすることが大切である</li> <li>・コミュニケーション手段として身振り、絵カードやメモ、機器などを活用する際には、個々の児童生徒の実態を踏まえ、無理なく活用できるように工夫することが必要である</li> </ul>	

6 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	(2) 言語の受容と表出に関する こと	相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えることができるようにするためには、話し言葉や絵、記号、文字などを活用できるように指導するとともに、 「2心理的な安定」 「3人間関係の形成」 「6コミュニケーション」等	・他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しいことがある	・話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、他の人との関わりやコミュニケーションの基礎に関する指導を行うことが大切である ・正確に他者とやりとりするために、絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くことや、メモ帳やタブレット型端末等を活用して自分の話したいことを相手に伝えることなど、本人の障害の状態等に合わせて様々なコミュニケーション手段を用いることが有効である ・相手の言葉や表情などから、相手の意図を推測するような学習を通して、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにすることが大切である	
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する こと		・言葉でのコミュニケーションが困難な場合がある  ・順を追って説明することが困難であるため、聞き手に分かりやすい表現をすることができないことがある	・自分の意思を適切に表し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット端末等の機器等を活用できるようにしたりすることが大切である  ・簡単な絵に吹き出しや簡単なセリフを書き加えたり、コミュニケーションボード上から、伝えたい項目を選択したりするなどの手段を練習しておき、必要に応じてそれらの方法の中から適切なものを選んで使用することができるようにすることが大切である	
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する こと		・会話の内容や周囲の状況を読みとることが難しい場合があるため、状況にそぐわない受け答えをすることがある	・相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けることが大切である ・実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるような指導を行うことが大切である	
		適切に報告したり相談したりする力を育てるには、 「2心理的な安定」 「3人間関係の形成」等	・援助を求めたり依頼したりするだけでなく、必要なことを伝えたり、相談したりすることが難しいことがある ・思考を言葉にして目的に沿って話すことや他者の視点に立って考えることが苦手なことなどがある ・コミュニケーションにすれ違いが生じることが多いことから、話す意欲が低下していることがある	・日常的に報告の場面をつくることや相手に伝えるための話し方を学習すること、ホワイトボードなどを使用して気持ちや考えを書きながら整理していくことが大切である ・コミュニケーションの基礎的な指導を工夫するほか、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することのよさが実感できるように指導していくことが大切である ・自分のコミュニケーションの傾向を理解していくことが重要である	✓ ✓ ✓
		場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにするには、 「2心理的な安定」 「3人間関係の形成」等	選択性かん黙の児童生徒の場合 ・家庭などの生活の場では普通の会話ができるものの、学校の友達とは話すことができないなどの場合がある	・気持ちが安定し、安心できる状況作りや信頼できる人間関係作りが重要である ・児童生徒が興味・関心のある事柄について、共感しながら一緒に活動したり、日記や作文などを通して気持ちや意思を交換したりする機会を多くすることが大切である ・状況に応じて、筆談などの話し言葉以外のコミュニケーション手段を活用することが大切である ・児童生徒が自信をもち、自己に対して肯定的なイメージを保つことができるような指導をすることが大切である	

LD・ADHD

対象生徒の実態から、書くことに困難さがあるため、LD・ADHDのシートを参考としました。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説より

区分	項目	他の項目との関連例	児童生徒の障害の状態	具体的な指導内容例と留意点	チェック
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事		ADHDのある児童生徒の場合 ・周囲のことに気が散りやすいことから一つ一つの行動に時間がかかり、整理・整頓などの習慣が十分身に付いていないことがある	・個々の児童生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組むことが大切である ・生活のリズムや生活習慣の形成は、日課に即した日常生活の中で指導をすることによって養うことができる場合が多い ・生活のリズムや生活習慣の形成に関する指導を行う際には、対象の児童生徒の1日の生活状況を把握する必要がある	
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		LD・ADHD等のある児童生徒の場合 ・学習や対人関係が上手くいかないことを感じている一方で、自分の長所や短所、得手不得手を客観的に認識することが難しかったり、他者との違いから自分を否定的に捉えてしまったりすることがある	・個別指導や小集団などの指導形態を工夫しながら、対人関係に関する技能を習得するなかで、自分の特性に気づき、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにすることが大切である	
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     マーカーで引いた箇所は、チェックする根拠となった記述や指導内容を検討する際に参考にした記述です。                 </div>	・生活環境などの様々な要因から、心理的に緊張したり不安になったりする状態が継続し、集団に参加することが難しくなることがある ・環境的な要因が心理的面に大きく関与していることがある	・睡眠、生活のリズム、体調、天気、家庭生活、人間関係など、その要因を明らかにし、情緒の安定を図る指導をするとともに、必要に応じて環境の改善を図ることが大切である	
			ADHDのある児童生徒の場合 ・自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなることがある	・自分を落ち着かせることができる場所に移動してその興奮を静めることや、いったんその場を離れて深呼吸するなどの方法があることを教え、それらを実際に行うことができるように指導することが大切である	
			ADHDのある児童生徒の場合 ・注意や集中を持続し、安定して学習に取り組むことが難しいことがある	・刺激を統制した落ち着いた環境で、必要なことに意識を向ける経験を重ねながら、自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に付け、学習に落ち着いて参加する態度を育てていくことが大切である	✓
			LDのある児童生徒の場合 ・読み書きの練習を繰り返し行っても、期待したほどの成果が得られなかった経験などから、生活全般において自信を失っている場合がある ・自分の思う結果が得られず感情的になり、情緒が不安定になることがある	・本人が得意なことを生かして課題をやり遂げるように指導し、成功したことを褒めることで自信をもたせたり、自分のよさに気づくことができるようにしたりすることが必要である	
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事		LDのある児童生徒の場合 ・数字の概念や規則性の理解や、計算することに時間がかかったり、文章題の理解や推論することが難しかったりすることで、自分の思う結果が得られず、学習への意欲や関心が低いことがある	・自己の特性に応じた方法で学習に取り組むためには、周囲の励ましや期待、賞賛を受けながら、何が必要かを理解し、できたという成功体験を積み重ねていくことが大切である		

2 心理的な安定	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	障害による学習上の困難を改善・克服する意欲に関する指導については、「4環境の把握」「6コミュニケーション」等	<p><u>LDのある児童生徒の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで学習する時間が増えるにつれ、理解が難しくなり、学習に対する意欲を失い、やがては生活全体に対しても消極的になってしまうことがある</li> <li>漢字の読みが覚えられない、覚えてもすぐに思い出すことができないなどにより、長文の読解が著しく困難になること、また、読書を嫌うために理解できる語彙が増えていかないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り仮名を振る、拡大コピーをするなどによって自分が読み易くなることを知ることや、コンピュータによる読み上げや電子書籍を利用するなどの代替手段を使うことなどによって読み取りやすくなることを知ることについて学習することが大切である</li> <li>書くことの困難さを改善・克服するためには、口述筆記のアプリケーションやワープロを使ったキーボード入力、タブレット型端末のフリック入力などが使用できることを知り、自分に合った方法を習熟するまで練習することなどが大切である</li> <li>代替手段等の使用により、学習上の困難を乗り越え、自分の力で学習するとともに、意欲的に活動することができるようにすることが大切である</li> <li>代替手段等の使用について指導するほか、代替手段等を利用することが周囲に認められるように、周囲の人に依頼することができるようになる指導が必要である</li> </ul>	<p>✓</p> <p>✓</p> <p>✓</p>
3 人間関係の形成	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること		<p><u>ADHDのある児童生徒の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりすることがある</li> </ul> <p><u>LD・ADHDのある児童生徒の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている場合がある</li> <li>活動が消極的になったり、活動から逃避したりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の行動とできごととの因果関係を図示して理解させたり、実現可能な目当ての立て方や点検表を活用した振り返りの仕方を学んだりして、自ら適切な行動を選択し調整する力を育てていくことが大切である</li> <li>早期から成就感を味わうことができるような活動を設定するとともに、自己を肯定的に捉えられるように指導することが重要である</li> </ul>	
	(4) 集団への参加の基礎に関すること	遊びへの参加方法が分からないときの不安を静める方法を指導するためには、「2心理的な安定」友達への尋ね方を練習するなどの指導をするためには、「6コミュニケーション」	<p><u>LDのある児童生徒の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのために集団に積極的に参加できないことがある</li> </ul> <p><u>ADHDのある児童生徒の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの説明を聞き漏らしたり、最後まで聞かずに遊び始めたりするためにルールを十分に理解しないで遊ぶ場合がある</li> <li>ルールを十分に理解していても、勝ちたいという気持ちから、ルールを守ることができない場合がある</li> <li>うまく遊びに参加することができなくなってしまうことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的によく使われる友達同士の言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方などを、あらかじめ少人数の集団の中で学習しておくことなどが必要である</li> <li>ルールを少しずつ段階的に理解できるように指導したり、ロールプレイによって適切な行動を具体的に指導したりすることが必要である</li> </ul>	
4 環境の把握	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		<p><u>ADHDのある児童生徒の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意機能の特性により、注目すべき箇所がわからない、注意持続時間が短い、注目する対象が変動しやすいなどから、学習等に支障をきたすことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注目すべき箇所を色分けしたり、手で触れるなど他の感覚も使ったりすることで注目しやすくしながら、注意を持続させることができることを実感し、自分に合った注意集中の方法を積極的に使用できるようにすることが大切である</li> </ul>	

4 環 境 の 把 握	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		LDのある児童生徒の場合 ・視知覚の特性により、文字の判別が困難になり、「め」と「ぬ」を読み間違えたり、文節を把握することができなかつたりすることがある	・本人にとって読み取り易い書体を確認したり、文字間や行間を広げたりして負担を軽減しながら新たな文字を習得していく方法を身につけることが大切である	
			LDのある児童生徒の場合 ・認知面において不得意なことがある一方で得意な方法をもっていることがある ・例えば、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れている場合がある	・本人が理解しやすい学習方法を様々な場面にどのように用いればよいのかを学んで、積極的に取り入れていくように指導することが大切である ・児童生徒一人一人の認知の特性に応じた指導方法を工夫し、不得意なことを少しずつ改善できるよう指導するとともに、得意な方法を積極的に活用するよう指導することが大切である	
			LDのある児童生徒の場合 ・書かれた文章を理解したり、文字を書いて表現したりすることは苦手だが、聞けば理解できたり、図や絵等を使えば効率的に表現することができたりすることがある	・本人が理解しやすい学習方法を様々な場面にどのように用いればよいのかを学んで、積極的に取り入れていくように指導することが大切である	
			LDのある児童生徒の場合 ・見やすい書体や文字の大きさ、文字間や行間、文節を区切る、アンダーラインを引き強調するなどの工夫があれば、困難さを改善できることがある	・児童生徒一人一人の認知の特性に応じた指導方法を工夫し、不得意なことを少しずつ改善できるよう指導するとともに、得意な方法を積極的に活用するよう指導することが大切である	
5 身 体 の 動 き	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		LDのある児童生徒の場合 ・視知覚のみによって文字を認識してから書こうとすると、目と手の協応動作が難しく、意図している文字がうまく書けないことがある	・腕を大きく動かして文字の形をなぞるなど、様々な感覚を使って多面的に文字を認識し、自らの動きを具体的に想像してから文字を書くことができるような指導をすることが大切である ・視覚、聴覚、触覚などの保有するいろいろな感覚やその補助及び代行手段を総合的に活用して、周囲の状況を的確に把握できるようにすることが大切である	
			(5) 認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関すること	ADHDのある児童生徒の場合 ・活動に過度に集中してしまい、終了時刻になっても活動を終えることができないことがある	・活動の流れや時間を視覚的に捉えられるようなスケジュールや時計などを示し、時間によって活動時間が区切られていることを理解できるようにしたり、残り時間を確認しながら、活動の一覧表に優先順位をつけたりするなどして、適切に段取りを整えられるようにすることが大切である
5 身 体 の 動 き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	姿勢を保持することが困難な児童生徒に対しては、「2心理的な安定」「4環境の把握」等	LDのある児童生徒の場合 ・左右の概念を理解することが困難な場合があるため、左右の概念を含んだ指示や説明を理解することがうまくできず、学習を進めていくことが難しい場合がある	・様々な場面で、見たり触ったりする体験的な活動と「左」や「右」という位置や方向を示す言葉と関連付けながら指導して、基礎的な概念の形成を図ることが重要である	
			ADHDのある児童生徒の場合 ・身体を常に動かしている傾向があり、自分でも気付かない間に座位や立位が大きく崩れ、活動を継続できなくなってしまうことがある	・身体を動かすことに関する指導だけでなく、姿勢を整えやすいような机やイスを使用することや、姿勢保持のチェックポイントを自分で確認できるような指導を行うことが有効な場合がある	

5 身体 の 動き	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	<p>落ち着いて自信をもち書字や描画に取り組むためには、</p> <p>「2心理的な安定」</p> <p>「4環境の把握」</p>	<p>LDのある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の握り方がごちなく過度に力が入りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出てしまうこと等、手や指先を用いる細かい動きのコントロールが苦手なことがある</li> <li>目と手、右手と左手等を協応させながら動かす運動が苦手なため、上手く取り組めないことにより焦りや不安が生じて、余計に書字が乱れてしまうことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付き定規等、本人の使いやすい文具を用いることにより、安心して取り組めるようにした上で指導することが大切である</li> <li>自分の苦手な部分を申し出て、コンピュータによるキーボード入力等で記録することや黒板を写真に撮ること等、ICT機器を用いて書字の代替を行う事が大切である</li> </ul>	✓
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事		<p>ADHDのある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意の持続の困難さに加えて、目と手の協応動作や指先の細かい動き、体を思った通りに動かすこと等が上手くいかないことから、身の回りの片付けや整理整頓等を最後まで遂行することが苦手なことがある</li> </ul> <p>ADHDのある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手足を協調させて動かすことや微細な運動をすることに困難が見られることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体をリラックスさせる運動やボディイメージを育てる運動に取り組みながら、身の回りの生活動作に習熟することが大切である</li> <li>目的に即して意図的に身体を動かすことを指導したり、手足の簡単な動きから始めて、段階的に高度な動きを指導したりすることなどが必要である</li> <li>手指の巧緻性を高めるためには、児童生徒が興味や関心をもっていることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ねることが大切である</li> <li>例えば、エプロンのひも結びについて、一つ一つの動作を身に付けることから始め、徐々に身に付けた一つ一つの動作をつなげ、連続して行えるようにすることが大切である</li> <li>手本となる動作や児童生徒自身の動作を映像で確認するなど、自ら調整や改善を図っていくことができるよう工夫することが大切である</li> <li>障害の状態によっては、身体の動きの面で、関係する教科等の学習との関連を図り、作業に必要な基本動作の習得や巧緻性、敏捷性の向上を図るとともに、目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整できるよう指導することが大切である</li> </ul>	
6 コ ミュ ニ ケー シ ョ ン	(2) 言語の受容と表出に関する事	<p>適切に自分の気持ちや考えを伝えるには、</p> <p>「2心理的な安定」</p> <p>「3人間関係の形成」</p> <p>「4環境の把握」等</p>	<p>ADHDのある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりすることがある</li> <li>行動を調整したり、振り返ったりすることが難しいことや、相手の気持ちを想像した適切な表現の方法が身に付いていないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師との個別的な場面や安心できる小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ねられるようにしたり、ゲームなどを通して適切な言葉を繰り返し使用できるようにしたりして、楽しみながら身に付けられるようにしていくことが大切である</li> <li>言葉のやり取りの指導を工夫するほか、体の動きを通して気持ちをコントロールする力を高めること、人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解させること、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導することが大切である</li> </ul>	
	(3) 言語の形成と活用に関する事		<p>LDのある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実体験、写真や絵と言葉の意味を結び付けながら理解することや、ICT機器等を活用し、見る力や聞く力を活用しながら言語の概念を形成するように指導することが大切である</li> </ul>	

6 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること		<p><u>LD</u>のある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み書きの困難により、文章の理解や表現に非常に時間がかかることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの読み上げ機能を利用したり、関係性と項目を図やシンボルなどで示すマインドマップのような表現を利用したりすることで、コミュニケーションすることに楽しさと充実感を味わえるようにしていくことが大切である</li> </ul>	
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること		<p><u>LD</u>のある児童生徒の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難なため、会話の内容や状況に応じた受け答えをすることができない場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で内容をまとめながら聞く能力を高めるとともに、分からないときに聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度を身に付けるなどして、そのときの状況に応じたコミュニケーションができるようにすることが大切である</li> </ul>	